

ロンドンの高層住宅大火災

一昨日未明のロンドンの高層住宅の大火災には驚きました。当地も連日メディアで取り上げられています。特に BBC の24時間ニュースチャンネルでは、どうしてこの様な惨事が起こったのか各界の専門家を交えての議論が盛り上がっています。



街路樹の緑と対照的に燃えるロンドン西部の高層住宅（**Evening Standards HP** より）

当該の公営高層住宅は1974年築の24階建て鉄筋コンクリート造りの建物です。外壁に断熱材が入っていなかったため、昨年外壁に断熱材のポリエチレンが張られました。施行工事を実施した業者は、ポリエチレン断熱材をアルミシートで挟み込んだものに、クラドルと呼ばれるプラスチックの外装材を外壁に取り付けられた構造で、イギリスの建築基準や耐火基準にも合致した材質と工法で、手落ちは無かったと BBC のインタビューで語っていました。また数年前から段階的に窓を鉄枠一枚ガラスから PVC 樹脂枠の二枚ガラスに交換して、窓の断熱性も高めて来ました。

出火原因はまだ判っていませんが、下層階からの出火があつという間にプラスチックのクラドルとポリエチレン断熱材を伝って上層階まで駆け上る様に燃え移り、PVC 樹脂製窓枠が溶けて窓枠とガラスが外れ、炎が部屋に進入して出火から30分くらいで全館火災に発展しました。

ポリエチレンは燃え易いですが、断熱性能のコストパフォーマンスは抜群なので、建築業界では断熱材として広く普及しています。要は使い方を誤ったということだと思います。

この様なポリエチレン断熱材とプラスチック外装材を使った高層ビル火災がこれまでに、フランス、アラブ首長国連邦、オーストラリアと世界各地で発生しており、これらの事例をイギリスの担当官庁や建築関係者がしっかり調査し、イギリスでは絶対にこの様な火災を起こさせないと、法改正を含めて対策を打っておけば防げたと思われま

す。今日の午後、BBCの国会中継で、災害委員会の模様が放映されていましたが、今回の火災は明らかに「防げたはずが防げなかった、人災である」と参加していた野党議員に対して、住宅担当大臣から労働党が政権を取っていたころはどうだったのかと、激しい議論を戦わせていました。メイ首相は早速、今回の大火災の早期の原因究明を命じて、一方全国の高層住宅の耐火性能の実態調査も命じて、文明国として恥じる今回の様な大惨事を二度とイギリスでは起こさせないと、決意を語っていました。

イギリスでも、高層住宅の一室の火災の場合、その部屋だけで、他の部屋には延焼しないとされており、この住宅の住民も他の部屋が火災時は、部屋に留まるように言われていたので、逃げ遅れた方々が窓からジャンプしたり焼死したりで、現地時間の15時現在で17名の死亡が確認され、行方不明者の捜索が続いています。

1980年代に入り高層住宅には、スプリンクラーの設置が義務付けられたが当該高層住宅はスプリンクラーの設置はありませんでした。また非常階段も一カ所だけで逃げるチャンスを失った方も結構いたのではないかと思います。

日本で同様な火災が起こりうるか、私が住んでいる東京の32階建て高層マンション（私は25階に居住）は、まず外壁に燃える建材が全くなく、居室の各部屋と共用廊下にはスプリンクラーが標準装備されており、玄関ドアは耐火構造で、非常階段は二カ所あり、いずれも煙が侵入しない様に、階段の前に副室と呼ばれる部屋があり、ここで完全に煙を遮断する構造になっています。地上にたどり着いた時は、全く違った場所に出て、逃げられる様になっています。入居した時に、火災時には非常階段を使って脱出するのがベストだが、廊下が炎や煙で危険を感じたら脱出をあきらめて居室に留まる様に言われ、今でもそう思っています。

大変悲しい出来事ですが、この大火災を教訓にイギリスはきっと現行の建築・火災基準をより厳しくして、再発防止に全力をあげることを期待しています。（了）